荒巻義雄

流行作家の電脳指南

これならできる一太郎7

中公PC新書

10

下記の宛先まで御意見、御感想をお寄せください

〒104　東京都中央区京橋2-8-7
中央公論社 開発局 第二編集部
e-mail : pc-ck@mxd.meshnet.or.jp
NIFTY-Serve : HHG01247

中公PC新書 10 ©1997 Yoshio ARAMAKI

流行作家の電脳指南

1997年1月15日　初版印刷
1997年1月25日　初版発行

著　者　荒巻義雄（あらまき よしお）
発行者　嶋中鵬二

本文印刷　三晃印刷
カバー　三晃印刷
製　本　小泉製本

発行所　中央公論社
〒104 東京都中央区京橋2-8-7
電話　販売部 03(3563)1431／編集部 03(3563)3664
振替　00120-4-34

Printed in Japan
ISBN4-12-510011-X C0250
定価はカバーに表示してあります。
落丁本・乱丁本はお手数ですが小社販売部宛お送り下さい。
送料小社負担にてお取り替えいたします。

荒巻義雄

流行作家の電脳指南

これならできる一太郎

中央本論社

江苏工业学院图书馆
藏书章

編集協力／大利根潮
装幀／富永デザイン事務所

Microsoft、MS-DOS、Windowsは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。
一太郎Ver.6.3 for Windowsおよび一太郎Ver.7は株式会社ジャストシステムが著作権を有するワープロソフトです。
一太郎、ATOKは株式会社ジャストシステムの登録商標です。
その他本書に登場する製品名は、一般に各開発メーカーの商標または登録商標です。

はじめに

A　パソコン革命は活版印刷革命に匹敵する

この本の著者、つまり私自身のことであるが、パソコン歴はまだ一年にも満たない。六十の手習いで始めたにもかかわらず、こうしてパソコンというものを操縦して、本書を電筆しているわけであるから、手順に従って一つ一つマスターしていけば、それほど難しいものではないのである。

だが、多くの人々は、パソコン生活の入口のところでつまずく。極端なケースでは、強いストレスにすら見舞われるらしい。

街の本屋さんに出かけて何冊も入門書を買い込み読んではみたものの、ページがすべて呪文のように思えたりして、結局、何もわからなかった——という経験をされた方も多いはずだ。

何を隠そう、かく言う私自身がそうだったのである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

一方、切実な現実的問題が、われわれ中高年のまわりで起き始めている。勤務先では社内の体制がパソコン導入に変わり、毎日の営業日報などをパソコンで処理することを義務づけられるご時世である。新卒の大学生にしても、進んだ企業では就職案内をパソコンネットワークを使い示すようになってきたし、そのほうが、何千万とかかる募集費用を節約できるのだそうだ。

だれもが知っているとおり、企業はどこも生き残りを賭けて必死である。日本経済のよき時代は終わったのであり、社会構造（むしろ社会機械）そのものを高性能化しなければ国際競争に勝つことはできない。およそパソコンとは縁のなさそうな農家ですら、積極的にパソコンを導入しているほどだ。

今はそういう時代――新産業時代に入っているのである。

多くの人々が言っているように情報革命時代であり、その意味はかつてイギリスで起こった産業革命以上の大きな革命であり、社会に大変動をもたらすという点ではマルクス主義以上の影響力を持つものと思われる。

わが国は、さしたる資源のない狭い国土に、一億二〇〇〇万人が住む。こうした無資源国家が、今後も平和を維持しながら、現在の生活水準を維持しつつ、未来へ生き延びるた

めには、日本社会そのものの性能を高める必要があるのだ。

今、起きているパソコン社会革命の意義は、そうした国家存亡の問題でもあるのではないか——とすら、私などは思う。

歴史をひもとくとわかるが、世界は、時々、大きく変わる。たとえば、かつて活版印刷機が発明された時期、ヨーロッパ社会は、これを受け入れることによって、社会の性能を飛躍的に高めることができた。印刷術によって、それまでは一部の支配階級に独占されていた諸知識が大衆のレベルまで普及した。ヨーロッパの大発展の原動力は、実は活版印刷術であった——と言っても過言ではないのだ。

右は、経営学の権威にして文明批評家のP・F・ドラッカーの言であるが、中国とイスラムの社会は活版印刷術を拒絶したがゆえにヨーロッパに敗れた。これが、十五、六世紀以降、アジア世界が衰退した理由の一つであるという。

二十世紀後半に出現したパソコンは、この十五、六世紀の活版印刷術とまったく同じ意味を持つ。パソコンは、単なるメディア革命ではなく、まず確実に世界システムそのものすらも変えてしまうであろう。

これまで、パソコンなどは、自社の経理部、あるいはデザイン会社に限られると思って

いた人々が多かったと思うが、急速に時代の風向きが変わり、無関係と思っていたわが身にも、パソコン革命の波が押し寄せてきたのだ。「これは、うかうかしてはおれないぞ」と、だれしもが内心では考えているはずである。

たしかに、パソコンを扱えるか扱えないかの差は、本を読むことができるか、文字を知らぬかの差にも匹敵する時代がいずれは来る。

ところが、多くの人々は、入口でつまずく。マニュアルはむろんのこと、入門書の類いや超入門書の類いを読んでも理解不能。第一、中高年のわれわれは、日々の仕事に追われ、時間がとれない。残念なことに頭は一つきりだし、日々、考えねばならない問題や仕事は山ほどある。とてもとても、パソコンの習得ごときに、たっぷりと時間を割けないのが実状なのである。

ではどうするか。私なりの体験では、どうもパソコンに関しては、まだ学習のマニュアルが確立していないのではないだろうか、と思う。わが国の英語教育が実用に役立たないのと同じで、いきなり文法重視では会話ができない。それと同じだ。

英会話は耳から慣れたほうが役立つ。パソコンも習うより慣れろである。パソコン・マニュアルも、いわば英語の文法書みたいなもので、正確にはちがいないが難しすぎる。文

法は全部後回しにして、とりあえず一つの仕事だけでも使えるようにするほうが合理的である。

何事にもよらず、物事というものには手順というものがあるのだ。つまり、学習の手順だ。いきなり、あれもこれもと欲張っても、結局は失敗する。一つ一つ段階を踏んで覚えていくのが、一番、確実な方法である。

B　パソコンは手の延長である筆記具ではない、頭脳の延長だ

正直に私なりの実感を言うと、たしかにパソコンは奥が深い。少なくとも、ものすごく深いらしいということまではわかる。現に、まだまだわからぬこと、未知の領域のほうが多いし、しょっちゅう戸惑い行き詰まっているのが現実である。しかも、この世には、いわゆるパソコン通といわれる手練(てだ)れの人たちが大勢いるわけで、私なども彼ら同士の会話がまったく理解できず、しばしばコンプレックスに陥る。その点では、皆さんとまったく同じ私である。

だが、パソコンができるということと、具体的な仕事をバリバリこなす能力とは、必ずしも一致しないのだ――という一面の真理にも、われわれは気付くべきである。自信を持

ち、パソコン化社会に適応しよう。パソコンの学習は、最初の門さえ抜け出せば、その後は比較的楽なのである。

たしかに、使ってみると、パソコンは便利である。だが、この、おそらくは、後世の史家たちが、二十世紀文明最大の発明として、自動車や航空機と並べて挙げるにちがいないパソコンは、最初は取っつきにくい。だが、慣れてくると、妙にかわいらしくなる。名前はまだないが、わが家の家族の一員である。また、仕事場の秘書である。頭のいい彼は、ゲームの相手はしてくれるし、飯の種の原稿書きを手伝ってくれる。会計計算をしたり、電子メールを送ってくれる。かと思うと、音楽まで聴かせてくれるし、インターネットというものに接続して、絶大な資料収集力を発揮するのだから凄い。

想いを古代ギリシャのポリス社会に馳せるなら、われわれは、そのパソコン・ポリス社会の一市民なのである。私なりの予測では、二十一世紀のイメージは、あの晴れ渡ったエーゲ海だ。知的な好奇心の塊となって人生を充実させること、そうした古代ギリシャ的な生き方が価値を持つ時代となるのではないか。多分、そうした未来的な生き方に必要不可欠な伴侶、それがパソコンではなかろうか、と思う。

というわけで、一台三十万円也の投資が安いか高いかは、人それぞれの人生観である。

私ならば、わが身体の強化――と考えるから、安いと思うわけだ。むしろ、パソコンは、私の感覚では、ニューロンの発達を促進する頭脳強化の道具である。

第一、車であれば、どんなに安くても百万はする。にもかかわらず、そうためらわずに買う。現代生活において車は必需品だからである。パソコンも同じ必需品である。

車は現代人の足である。車を持つことで、われわれの行動半径は何百倍も広がり、またそのことによって、時間という貴重この上もない資源の面で得をしている。そう考えるからこそ、われわれは、車に投資をするわけである。

車が足なら、パソコンは頭脳である。ご主人様としては、この有能な秘書を、上手に働かす必要がある。そのためには、こちらとしても、少しは勉強しておかなければならない。

だが、その勉強の仕方が、実は――大いに問題なのである。

C　ビギナーはいったんマニュアルを捨てよ

そこで、私はこの本を書く決心をしたのだ。

なぜかというと、物事に詳しいということと、その知識を伝えるということは、まったく別であるから。まったく異なる能力なのである。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo

というのも、私は女子大の先生というものを四年間続けてきたが、教える難しさというものを、つくづく実感してきた。私の担当は文芸論というものであるが、最初は戸惑ってばかりいた。あれこれ試行錯誤しながら授業法を考え、私なりに出した結論は、目標へ到るまでの手順の大事さということ。いきなり難しい学問的な知識、理論を講義してもだめなのである。

しかし、わが身に振り返るなら、このケースは、パソコン学習とまったく同じではないだろうか。大学では私が先生だが、パソコンに関しては私が生徒の立場だ。つまり、習う立場になって初めてわかったのが、いわゆるパソコン・マニュアルの難しさであった。

皆さんと同様に、私にもマニュアルの類は、まるで理解できない。超入門書の類いもあれこれ漁っているが、それでも半分もわからない。

ま、そういう人物が、今、自分なりのパソコン入門書を書こうというのだ。しかし、だからこそ、かえってわかりやすく書けるのではないだろうか——と私は考える。

ビギナーはどこでまちがえるか。どこで戸惑うか。何が、なぜわからないか。そのことを知っているのは、熟練者ではなくて、むしろ、私のような入門者のほうだからである。

流行作家の電脳指南　目次

はじめに……3
第一章　最低限度の予備知識……17
——まずは電脳基礎用語
第二章　ウインドウズ95電脳ホテルへようこそ……30
——電源オンから「一太郎」を起ち上げるまで
第三章　「一太郎7」で電筆する……48
——ローマ字入力の初歩、教えます
第四章　作った文書を保存する……70
——ワープロ専用機とはちょっとちがう
第五章　パソコンの正しい止め方……84
——手順はひと通りではない
第六章　どうせなら綺麗に印刷したい……94
——印刷の手順とレイアウト法

第七章　「ファイル（F）」をマスターする……103
——これで「一太郎」は七割がたこなせる
第八章　もっと便利に「一太郎」……107
——「ESC」キー活用／自分専用辞書を作る／検索と置換
中間試験問題……117
——これまでの知識のまとめ
第九章　日本語入力を司るATOK……130
——ATOKパレットの意味と操作法
第十章　記号や難しい漢字を入力する……138
——コード入力は有効な手段だ
第十一章　ルビのふり方と字体の変更……145
——あっというまに見映えがよくなる

第十二章　機能キーを活用する……149
——「一太郎7」操作をスピードアップ
第十三章　優秀な校正マン……158
——文書校正支援機能「修太2」
第十四章　ショートカットでひとっ飛び……162
——アプリケーションへの近道を作る
第十五章　ローマ字入力に裏技あり……167
——「XA」で「しゃ」と打てる短縮入力法
第十六章　電脳ホテルの改装工事……170
——見た目を好みのままに変えてみる
落ち穂拾い／書き落としたこと……177
——あとがきに代えて

流行作家の電脳指南

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongboo